

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- ▶ 平地を利用した水稲、麦、大豆による水田農業が盛んな地域
- ▶ 高齢化や後継者不足により農地の出し手が増加しており、受け手となる担い手の育成・確保が急務

【支援内容・背景】

- ▶ 担い手の経営強化や規模拡大に向け、農地バンクを活用した農地集積、水田を活用した高収益作物の導入や地元農産物のブランド化を推進
- ▶ 助成対象者は、水稲、麦、大豆を中心にブロッコリー等との複合経営を展開 農業経営の規模拡大や収益向上を図るため、畝立播種等による高品質・高収量の生産、農地の団地化、環境保全型農業(夢れんげなど)を実践していることから、地区における大規模複合経営の発展モデルとして育成・支援



助成対象者「A社(法人)」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- ▶ 昭和58年 就農(父から経営移譲)
- ▶ 平成5年 経営改善計画認定
- ▶ 平成24年～ 町農産物ブランド化推進協議会副会長
- ▶ 平成27年 法人化(株式会社)
- ▶ 平成29年 全国麦作共励会全国農業協同組合連合会会長賞受賞
- ▶ 同年 ブロッコリー栽培開始
- ▶ 平成30年 育苗ハウス等導入

《事業活用の背景》

- 国内需要が拡大している米粉用米や高収益が見込まれるブロッコリーなどの増産に取り組むため、育苗作業の効率化・省力化や作物の生産性の向上に資する育苗ハウス及び高性能機械を導入

【事業実施時の状況】  
〈H30年度〉

- 付加価値額 22百万円 (売上高 62百万円)
- 経営面積 29.0ha
- 主な栽培面積
  - ・主食用米(夢れんげなど) 16.4ha
  - ・米粉用米 2.3ha
  - ・麦 19.3ha ・大豆 8.0ha
  - ・ブロッコリー 2.6ha

《事業による整備内容》

- 育苗ハウス 3連棟
- リバーシブルプラウ 1台
- バーチカルハロー 1台
- ウイングハロー 1台
- 溝掘機 1台
- ミニバックホー 1台
- 事業費 18,136 千円 (国費 8,350 千円)



【現在の経営状況】  
〈R2年度〉

- 付加価値額 28百万円 (130%) (売上高 73百万円 (118%))
- 経営面積 32.0ha (110%)
- 主な栽培面積
  - ・主食用米(夢れんげなど) 16.8ha
  - ・米粉用米 6.6ha (287%)
  - ・麦 19.7ha ・大豆 1.0ha
  - ・ブロッコリー 3.7ha (142%)
  - ・なたね(油糧用) 0.8ha (皆増)

事業の  
効果

《対象者》 作業効率等の向上が図られたことにより、規模拡大によるブロッコリーや米粉用米などの増産が実現し、売上高及び所得が向上

《地区》 担い手への農地集積の推進や町の農産物のブランド化(夢れんげ、遠賀菜種油)に寄与するなど、地域の中核となる担い手の複合経営モデルが確立

